



日々新聞 第九号

大阪府下船越町小橋骨を葉とする松本
 氏の号二婦人有りは泉術の精あり
 其勇からり明治年正月
 の初迄傍の女主人を
 連立ち長柄堤を
 通るふ川尻寒乾黄
 昏小四人の荒男跳りかり 二母をもちて
 戯るふとじゆハ弱く云のうと一ふ不作法次第ハ
 強きあり二人を倒し上へ架らる有さぬ松本はハ家
 早免して置ささうと四人の男を入りて馴のけ蹴散
 手練の早業川さんぶと投るも有り悪黨のこれハ
 恐と皆々是ハ一同跡白浪の川岸を灰チリ切
 逃散り元此のうある人の泉術父の剣法業術不定め名を
 得一人柱も長柄の橋のうと絶て娘の勇気が匡と感さぬ
 人ハありりるを

花源堂誌

泉術

修文

